プログラム

9月3日(木)

9:30▶9:35 開会のご挨拶 K-0 センチュリールーム 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会

9:35▶10:25 基調講演 K-1 センチュリールーム

株式会社アシックス
執行役員 CIO兼CDO
大島 啓文 氏

グローバル成長を支えるデジタル戦略と体験価値共創

アシックスのIT・デジタル部門が、経営戦略であるグローバル成長、ブランド体験価値向上、オペレーショナルエクセレンスをいかにIT・デジタル戦略に落とし込んで推進しているか、その取り組みについてデータとAIの活用、お客様サービスの高度化、人財育成にも触れながらご紹介いたします。

10:40▶11:30 特別講演 K-2 センチュリールーム

日立建機株式会社
高位専門職（役員）
グローバル営業本部
顧客サクセス部長
猪瀬 聡志 氏

レッドハット株式会社
代表取締役社長
三浦 美穂 氏

2030年「AIネイティブ」な日本を共に創る

2030年に向けて数ヶ月単位で激変する技術環境。AI活用が急がれる一方「システムがブラックボックス化し運用が回らない」といった現場の悩みは尽きません。本セッションでは、ただツールを導入するのではなく、AIに業務を「任せられる組織体制」へと見直す道筋を紹介します。「プラットフォームの手の内化」による解決策に加え、日立建機の猪瀬氏をお招きし、ビジネス変革に挑む最前線から得られるリアルな声を対談形式でお届けします。

11:45▶12:35 基調講演 K-3 センチュリールーム

国立情報学研究所
教授
佐藤 一郎 氏

共創が導くAI活用の進化とAIの次なるフロンティア
～AIをコストから資産に変え、企業価値を高めるAIの活用と新技術～

企業において生成AIを中心としたAI活用は急速に広がっています。一方で、その多くは局所的な効率化にとどまり、結果として組織全体の生産性をむしろ低下させているケースも少なくありません。本講演では、生成AIを中心に、企業におけるAI活用の現状と課題を整理した上で、AIを単なる効率化手段にとどめず、企業の競争力を高める「資産」へと転換する方策を提示します。あわせて、最新の活用事例を踏まえ、今後の企業におけるAI活用の方向性を展望します。

12:55▶13:40 ランチョンセッション 松花堂弁当つき

AI活用は“導入”から“運用”へ ～ エンタープライズAI時代に求められる新たなリスク対策 ～ L-1
会場❶クリスタルルーム

生成AIのビジネス活用が本格化する一方で、機密情報漏洩やプロンプトインジェクションなど、新たなリスクへの対応が求められています。本セッションでは、企業におけるAI活用の最新動向と課題を整理し、次世代の「AIセキュリティ」が不可欠となる理由を解説。その上で、安全な共創環境を実現するための「AIガードレール」の構築や「AIレッドチーム」による擬似攻撃演習などの実践的なアプローチをご紹介します。

F5ネットワークスジャパン合同会社
折原 直美 氏

AIと従業員のIT体験（DEX）によるIT運用変革 ～感情・経験の満足度向上（XLA）が創る次世代IT戦略～ L-2
会場❷平 安

DXや働き方改革が進む中、IT部門には「システムを維持する」だけでなく、従業員体験を継続的に向上させる役割が求められています。本セッションでは、従業員のIT体験（DEX）や感情・経験の満足度向上（XLA）をベースに、生成AIを活用した新しいITサービスの在り方について、事例やデモ（AIエージェント Nexthink Sparkによる問題解決など）を交えながらご紹介します。

Nexthink合同会社
福崎 一郎 氏

AIがコードを書く時代、あなたは何を保証するのか? ～生成AI時代に問われる品質保証の新しい役割～ L-3
会場❸白 鳳

AIが生成するコードや成果物―あなたはその品質やリスクを本当に説明できますか?いま、生成AIは説得力のある“答え”を次々と生み出します。しかし、その裏に潜む“見えないリスク”や品質の落とし穴を見抜き、納得のいく説明責任を果たせるのは、最終的に“人”です。本セッションでは、テスト・プロセス・組織の観点からAI時代の品質保証を再定義し、実際の品質改善事例を交えながら、人とAIの最適な役割分担を考えます。

バルテス・ホールディングス株式会社
石原 一宏 氏

バルテス株式会社
中村 俊博 氏

経営を支えるAI時代のIT戦略～価値創出と基盤強化をどう両立させるか?～ L-4
会場❹天 平

生成AI・AIエージェントが顧客価値創出や組織変革、AI×人の共創を加速させる一方、新たなサイバーリスクへの対応に頭を悩ませていませんか?本セッションでは、攻めのAI活用による事業価値創出と守りのAI活用による経営基盤強化を両立するAIガバナンスと柔軟なAIプラットフォーム戦略に着目。単なる理想論に終わらせず、現場で一歩を踏み出すための実践的な指針を提示します。

Ridgelinez株式会社
伊藤 清隆 氏

なぜDXしても"確認作業"は減らないのか ―AI時代の業務・統制改革― L-5
会場❺桃山A

DXやAI導入が進んでも、確認・承認業務は増え続けています。本セッションでは「後追い確認管理」の限界を明らかにします。リアルタイムデータとAIによる自動検査・制御により、内部統制と業務オペレーションを同時に高度化し、効率化とリスク低減を両立することで、持続的成長や価値創造へのアプローチへつなげるアプローチを提示します。

Miletos株式会社
髙橋 康文 氏

人中心からAI中心へ ― AIエージェント前提の業務とガバナンス L-6
会場❻桃山B

業務の主役は、人からAIへ。AIの組織的活用が大きな経営課題とされるなか、生成AIは“ツール”の時代を終え、業務を担う“AIエージェント”へと進化しつつあります。海外では実装が動き始める一方、PoC止まりやシャドーAIなど統制不在のリスクも浮上。本セッションでは、海外先行事例を交えながら、AIと共に働く時代の業務とガバナンスの設計についてお話しします。

ServiceNow Japan合同会社
作田 浩樹 氏

13:55▶14:45 特別講演 K-4 センチュリールーム

パナソニック デジタル株式会社
インフラ・セキュリティ 戦略マネジメント部
部長
川嶋 純一 氏

ヴィーム・ソフトウェア株式会社
システムエンジニアリング本部
セキュリティ ソリューション アーキテクト
熊澤 崇全 氏

攻めと守りの両輪が企業価値を伸ばす
- パナソニックが実践するAI時代のIT経営変革

売上8兆円・グループ18万人のパナソニックが「2035年売上の3割AI化」を掲げ、事業成長を加速するAI全社展開と、AIを活用した次世代サイバーセキュリティ対策の両輪でIT経営変革を推進しています。「人とデジタルが共に創る価値」のリアルな実践から、CIO・CDOが描くべきAI時代の経営戦略、データ保護と価値創出の両立、SCS評価制度への対応などの取り組みを紹介します。

15:05▶16:05 フォーラムセッション

生成AI活用のリアルと挑戦～現場の業務変革の活用事例 F-1
会場❶クリスタルルーム

生成AIの活用は、現在各社の喫緊の課題になっています。本セッションでは、生成AIを業務に導入し、現場の変革に挑む企業の具体的な活用事例を紹介します。オフィス業務の効率化やデータ分析による成果といった「攻めの活用法」から、社内での人材育成、独自のデータ基盤構築、そしてコスト管理やセキュリティ・ガバナンスの壁といった「守りの対策」まで、今後の展開に向けたリアルな知見をお届けします。

進行役：
株式会社IHI
松永 稔雄 氏

進行役：
国分グループ本社
株式会社
酒井 宏高 氏

進行役：
野村ホールディングス株式会社
安中 工 氏

JUASクローズアップセッション

教科書通りにいかない「AI-Ready」の現実 X-1
会場❷平 安

JUASでは研究プロジェクト「AI-Readyに向けた役割・スキル定義」を発足させました。DSS2.0「DXプロジェクトにおける役割・必要スキル定義モデル」を参考に、より実践的に活用する上での、「重要な役割・タスク（スキル）、プロジェクトを進める上での留意点」を各社の事例を元に検討しております。本セッションでは、これまでの取り組みと今後の進め方を中間報告します。

講演者：
三菱UFJインフォメーションテクノロジー株式会社
杉浦 京樹 氏

講演者：
JALデジタル
株式会社
小熊 孝洋 氏

モデレーター：
一般社団法人
日本情報システム・ユーザー協会
島 健夫

スクエア事例セッション

AI時代の製造業DX ～AGCの挑戦と現在地～ S-1
会場❸白 鳳

生成AIの登場により、企業のDXは新たな局面を迎えています。AGCでは2015年以降、製造現場から研究開発、間接業務に至るまで全社的にDXを推進し、現在は価値創造フェーズへと進化してきました。本講演では、その取り組みの変遷を踏まえ、データ活用や生成AIによる業務変革の実践に加え、それらを支えるデジタル人財育成や組織横断の仕組みについても具体的に紹介します。

講演者：
AGC株式会社
等々力 宏 氏

モデレーター：
JUAS 製造業DX推進アプローチ研究会
株式会社IHI
番場 汐美 氏

JUASクローズアップセッション

問いと意思決定のエクスペリエンス ーデジタルと共創する人間の果たすべき役割ー X-2
会場❹天 平

デジタルと人との共創の中で、人にしか為し得ない役割とはいったい何でしょうか？「人間中心の立場から見たデータ（デジタル）によるエクスペリエンス」を8年間探求し続けてきたJUASデータエクスペリエンス研究会の結論は、“「問い」の創造”と“「意思決定」の実行”です。本セッションでは、参加者の皆さんに「問い」の創造と「意思決定」の実行を体感（エクスペリエンス）していただきます。

JUAS
データエクスペリエンス研究会

株式会社
NTTデータ バリュー・エンジニア
海老原 吉晶 氏

Data Station
株式会社
渋谷 直正 氏

株式会社
クレディセゾン
竹内 亮介 氏

JUASクローズアップセッション

AI時代に求められるリーダーとは～IMCJ卒業生と考える次世代リーダー像 X-3
会場❺桃山A

AIの急速な普及など、テクノロジーが急速に進化し続ける今、これからの時代を牽引するリーダーの在り方、そしてその育成はどうあるべきでしょうか。本セッションでは、次世代リーダーに求められる要件を解き明かす講演に続き、第一線で変革と向き合うIMCJ卒業生3名によるディスカッションを展開します。変革の時代に、IT部門のリーダーが「今、本当に取り組むべきこと」を共に考えます。

JUAS イノベーション経営カレッジ（IMCJ）

講演者、モデレーター：
デジタル教育推進機構／デジタル人材育成学会
角田 仁 氏

パネリスト：
サントリーホールディングス株式会社
遠藤 康一 氏

パネリスト：
株式会社
証券保管振替機構
小平 すみ子 氏

パネリスト：
日本ペインコーポレートソリューションズ株式会社
丸山 一直 氏

フォーラムセッション

AI時代にこそ求められる人材像と育成、評価 F-2
会場❻桃山B

AI時代にこそ求められる人材とは、AIと共に人間にしかできない領域で価値を発揮する人ではないでしょうか。そうした人材をどう育成、評価、採用していくべきか。各社のリアルな現状と第一歩を歩み始めている、そして道筋にある具体的な事例を中心に皆様と議論してまいりましょう!

進行役：
コニカミノルタ情報システム株式会社
浅田 敦 氏

進行役：
ハマゴムエイコム株式会社
橋野 光 氏

進行役：
明治安田システム・テクノロジー株式会社
梅本 竜弘 氏

●特別講演、ランチョンセッション、コンサルティングセッションならびにブースセッションは協賛各社の提供プログラムです。

プログラム 9月3日(木)

16:20▶17:05 コンサルティングセッション

C-1 モダナイゼーション成功の秘訣〜AIネイティブ環境と高水準QCDを両立するアプローチ〜
会場❶クリスタルルーム

現代のAIは、インターネット上に学習データが少ないレガシー言語を苦手としており、精度の低さが老朽システムの解析や活用の障壁となっています。また、保守切れ対応による形式的なJava化が、かえってAI活用の足かせとなる例も少なくありません。本講演では、東証トップ200企業中60社以上の事例に基づき、高水準なQCDでAIネイティブ環境を構築し、業務改善へ導く手法を紹介。成功するモダナイゼーションの要諦を解説します。さらに、京セラ様によるモダナイゼーションの実践事例講演も予定されています。

京セラコミュニケーションシステム株式会社
木村 竜也 氏

株式会社ソフトロード
大橋 順二 氏

C-2 成果を出せるAIと出せないAIを隔てる3つの構造的課題
会場❷平 安

AI技術は飛躍的に進化し、精度や性能はもはやAI活用の拡大を阻む障壁ではありません。ではなぜ、多くの企業でAIの業務活用が進まないのでしょうか。本セッションでは、成果創出の鍵となる①現場主導の活用促進【人】、②最適技術の柔軟な選択と連携【オーケストレーション】、③AIの信頼性を担保する仕組み【ガバナンス】の3点を軸に、実践に向けたポイントを解説します。

Dataiku Japan株式会社
佐藤 豊 氏

Dataiku Japan株式会社
松島 七衣 氏

C-3 端末の死角が、経営を揺るがす 〜デバイスデータ×AIで再定義する経営インフラ
会場❸白 鳳

守っているつもりが、守れていない。なぜこの構造が生まれるのか?「導入済みのEDRが実は動いていない」—実データが示すこの現実は経営の盲点です。ITとセキュリティ部門が別の論理で動き、誰も端末の実態を把握できません。AIが業務データを横断分析するように、デバイス情報をAIのデータソースにする発想が構造問題を解きます。デバイスの可視性を経営インフラと捉え直し、攻守を同時に動かす組織への転換を論じます。

タニウム合同会社
阿部 俊 氏

C-4 経営と現場をつなぐ全社知識活用とAI活用〜推進の実践知と今後の展望〜
会場❹天 平

AI活用が広がり、ツール利用が定着し始める一方で、アウトカムにつなげられている企業はまだ多くありません。本講演では、アシストが2020年以降、社内の知識活用とAI活用を進める中で直面した壁や試行錯誤、定着に向けた工夫を、ベンダーではなくユーザーとしての立場から率直に共有します。Gleanの社内実践を通じて見えてきた、全社推進の体制づくりと実行の勘所、そして今後の展望をご紹介します。

株式会社アシスト
佐子 雅之 氏

株式会社アシストAIテラス
松山 晋ノ助 氏

C-5 サイバー攻撃対策と運用コスト削減を実践!クラウド時代の特権ID管理
会場❺桃山A

特権ID管理(PAM)は、導入後の維持運用が負担になりやすく、サイバー攻撃の脅威を考えるとクラウドサービスまで管理対象を拡大することが急務です。本講演では、既存PAM製品の過度な作り込みによる技術負債や保守コストの課題に対し、新たなソリューション(Secret Server)を用いることで、モダンな環境へ対応し、運用の標準化とコスト削減を叶えた、実践事例を紹介します。

帝人株式会社
中村 芳晃 氏

株式会社アイ・アイ・エム
田口 学 氏

C-6 AIエージェントで進化する“動き続ける”顧客・従業員体験を支える新しい成功のカタチ
会場❻桃山B

環境激変や人手不足の中、企業の競争力は人間とAIエージェントが新たなチームとして「共に働く」時代へと変化しています。ビジネスの深い文脈を理解し自律的に動くAIエージェントが、顧客体験の限界、従業員体験の疲弊、部門間の分断といったこれまでの壁をいかにブレイクスルーし、再定義するのか。人とAIが共に働く世界へと進化するための、信頼のプラットフォームをご紹介します。

株式会社セールスフォース・ジャパン
田崎 純一郎 氏

17:25▶18:25 フォーラムセッション

F-3 「使うAI」から「成果を出すAI」を目指して〜AI-Readyに向けたIT部門の挑戦
会場❶クリスタルルーム

「あたりまえ」になりつつあるAI活用。単なる便利なツールにとどまらず、成果を出すことが、今問われています。そのために必要なのは、「AI-Ready」な状態をどう作るか。データ整備、セキュリティやガバナンス、教育など、一朝一夕にはいかない課題が数多く存在します。
本セッションでは、同じ課題に直面する企業の取り組みを通して、「AI-Readyな企業」へアップデートするための一歩を探っていきます。

進行役:
大日本印刷株式会社
下垣内 禎典 氏

進行役:
東海旅客鉄道株式会社
佐藤 元宣 氏

進行役:
三菱食品株式会社
桑原 健太郎 氏

JUASクローズアップセッション

X-4 クラウド・パッケージ・アジャイル時代に欠かせないソフトウェア生産性・品質指標
会場❷平 安

現代のシステム開発は、クラウド・パッケージ・アジャイルが当たり前の時代へ。この新環境に適した生産性・品質メトリクスの整備は、多くの企業で未開拓か発展途上の段階にあります。本講演では、昨年度の調査で得た開発を成功に導くノウハウを振り返りつつ、企業が今こそ注目すべきメトリクスを導入事例とともにご紹介します。

ソフトウェアメトリクス調査プロジェクト

講演者:
シフト&シナジー
大熊 眞次郎 氏

モデレーター:
一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会
藤本 礼久

スクエア事例セッション

S-2 大企業とスタートアップ、両方の病を越えて、ITを武器にする経営の作法
会場❸白 鳳

DX銘柄・製造業トップランナーである大手飲料メーカーにて、「ITはコスト部門」という大企業病と闘い、IT予算を数倍に拡大。レガシーからモダンへの全社変革を主導してきました。現在はSMBCにて新銀行設立準備に従事するが、スタートアップを含む多くの現場で「テックにこだわりすぎる」逆の病も目の当たりにしてきました。両極端を経験した立場から、AIを含むデジタルを事業の武器にする「変革の設計論」を実践ベースで語ります。

DXグランプリ2026 Digital Transformation

講演者:
株式会社三井住友銀行
清水 博 氏

モデレーター:
JUAS AIエージェンティックエンジニアリング研究会
TDCソフト株式会社
近正 和也 氏

スクエア事例セッション

S-3 電通グループのセキュリティ革命
会場❹天 平

近年、多発するサイバーセキュリティインシデントは、企業の事業継続に甚大な影響を及ぼしており、セキュリティは経営上の重要課題となっています。本講演では、国内電通グループが多年にわたり推進してきたセキュリティ強化の歩みを振り返り、ガバナンス、人材育成、技術基盤の変革を紹介します。さらに、生成AIの普及を踏まえ、AI時代に求められるセキュリティ戦略と実践について展望します。

講演者:
株式会社電通コーポレートワン
根津 修二 氏

モデレーター:
JUAS 企業情報セキュリティ・マネジメント研究会
株式会社エイジス
川又 康平 氏

フォーラムセッション

F-4 【ITグループ会社の本音】AI活用のリアル〜PoCの壁、組織変革、そして未来〜
会場❺桃山A

生成AI/AI駆動開発の波が押し寄せる中、ITグループ会社はどう舵を切っているのでしょうか。「ITグループ会社経営フォーラム」のメンバーが直面している、AI活用のリアルな現在地を明かします。成功事例に留まらず、推進体制の壁や投資対効果への苦悩など、表舞台では語られない「綺麗事なしの本音」をもとに、これからどのように新たな価値を創造していくかについて、会場の皆様と一緒に考えていきます。

進行役
ANAシステムズ株式会社
今井 幸次 氏

進行役:
株式会社関電システムズ
小野 哲哉 氏

進行役:
JFEシステムズ株式会社
渡邉 崇 氏

フォーラムセッション

F-5 生成AIを「点から面へ」——業務実装と全社展開のリアル
会場❻桃山B

生成AIはPoCや個別活用の段階を超え、企業の業務や意思決定に組み込むフェーズへと移行しています。本セッションでは、各社の実践事例をもとに、AI活用を組織的に広げるための推進体制、業務への具体的な組み込み方、品質確保に加え、AI特有のリスクに対応するセキュリティ対策やガバナンス整備、
人材育成といったテーマを横断的に解説します。実運用を通じて見えてきた成功要因と課題を明らかにし、持続的かつ安全なAI活用に向けた実践的な示唆を提示します。

進行役:
株式会社ノーリツ
三和 敏幸 氏

進行役:
関西電力株式会社
梅本 潤 氏

進行役:
大和ハウス工業株式会社
福嶌 健 氏

12:30▶18:15 ブースセッション
事前予約枠:①12:55〜 ②13:25〜 ③14:45〜 ④15:35〜 ⑤16:20〜 ⑥17:05〜 ※各回20分程度

B-1 AIエージェント時代のインフラ構築:Twilioで実現する「途切れない顧客体験」
B1Fロビー

Twilio Japan合同会社
永井 慧 氏

Twilio Japan合同会社
中村 光晴 氏

AIの自律化が進む中、多くの企業が「チャネル分断による文脈(コンテキスト)の喪失」という技術負債に直面しています。データ収集接点等の変更に伴い、AIとの接点で文脈が途切れることにより、LLMのトークン投資やデータ統合の成果が活かせない状態が発生しています。本セッションでは、Twilioが発表したコンテキストをインフラレベルで維持する新会話レイヤーを解説。AIと人の協調を最適化し、ビジネス価値へ直結する実践的な戦略を提示します。

B-2 AI時代の「攻め」と「守り」を両立するデータ戦略〜Ciscoとsplunkが実現する、ビジネスレジリエンス強化〜
B1Fロビー

Splunk Services Japan合同会社
スケールビジネス事業本部
本部長
西尾 龍彦 氏

AIの活用はビジネスの高度化・迅速化を加速させる一方、セキュリティリスクも増大させています。本セッションでは、AIと人が協業する「Agentic SOC」の重要性を説きます。データ集約基盤「Cisco Data Fabric」を軸に、Splunkを活用した実践的なデータ戦略を解説します。AIの活用により、攻めと守りを両立し、企業のデジタルレジリエンスを強化する次世代のデータ活用術をお伝えします。

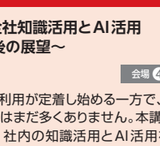
18:35▶19:35 ネットワーキングパーティ K-5
センチュリールーム

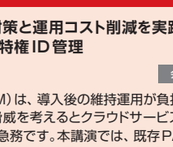
ドリンクスポンサー

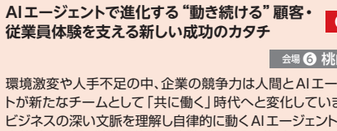
アサヒビジネスソリューションズ
自然を、おいしく、楽しく。KAGOME
kikkoman
よろこびがつなぐ世界へ KIRIN
SAPPORO
SUNTORY
田辺ファーマ
かがやく“笑顔”のために morinaga 森永乳業

(50音順)

皆様へのお願い


ネックストラップはイベント参加証となりますので、常時携帯ください。


ご来場の際は、QRコードを提示できるスマートフォンか印刷した受講票を必ずご用意ください。


事前に許可をいただいた方以外による、録音・録画・写真撮影は固くお断りします。

携帯電話はお切りになるか、マナーモードにしてご使用はお控えください。

講演中にPCご利用の際は、キータッチの音にご留意ください。

マイページより「アンケート」にご協力ください。

マイページはこちら
https://juas-square.jp/f/13324/sq2026/mypage/top

●特別講演、ランチョンセッション、コンサルティングセッションならびにブースセッションは協賛各社の提供プログラムです。